



山口電機工業株式会社

自動車部品開発メーカー。東京に本社を置き、鹿角をはじめ、アメリカ、中国と海外にも工場を持つ。オーダーメイド製品だけでなく、自社製品開発にも力を入れている。



会談後、人材の確保や育成について熱く語り合ったお二人。意気投合し、これからも情報の交換をすることを約束して、帰っていかれました。



対談にご登場いただいた全20社のドキュメンタリー映像を公開しています。

「おらが町の会社」と 思ってもらえるように

山口●昨年「花輪祭の屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に選ばれましたし、鹿角は今後ますます注目が集まるのではないのでしょうか。

と人との距離が近いので、誰と話していても親しみを感じますね。何でも気兼ねなく話せる気がします。

原●鹿角の日本酒、本当に美味しいですね。他所からいらしたお客様におすすめて喜んでいただけると、自分が褒められたように嬉しくなります。

山口●私も鹿角でもっとゆっくり過ごしたいと思っていますのですが…。社員たちと一杯飲みながら、じっくり仕事の話を聞く…なんていう場を作りたいのです。鹿角の方は真面目なだけに、何かあっても抱え込んでしまう傾向にある気がします。意見で

も悩みでも、もっと聞きたいのですが。

原●そうかもしれませんね。私ももっと意見が出てくればと思っています。現場だからこそ気づく改善点や、アイデアがあるはずですね。ただ、今は作業で手一杯になってしまっただけな余裕がないのかもしれない。ですからそのための時間が取れるよう、工場の機械化を少しずつ始めています。

山口●工場の省力化は私も考えているところです。ぜひ今度工場を見学させてください。

原●もちろんどうぞ。開かれた会社でありたいと思っていますので、工場見学は大歓迎です。ぜひご意見を聞かせてください。私も山口さんのところを見に行きたいですね。

山口●ええ、ぜひお越しください。今後はさらに鹿角に力を入

温かく迎え入れてくれた 鹿角に恩返しを

鹿角の人は とことん真面目 心から信頼できる

ますね。

原●そうですね。新化食品は、高品質のパンを、安定的に製造するために欠かせない製パン改良剤の会社として始まりました。その後岩手にフルーツ加工の工場を作ったところ、鹿角市からの誘致のお話を頂き、

対談

山口電機工業株式会社
代表取締役

山口哲夫

新化食品株式会社
代表取締役

原夏生

10

鹿角進出を果たした
2社の想い

新化食品株式会社

パンに風味を加える製パン改良剤のメーカーとして設立。鹿角にある花輪工場ではフルーツ加工を行っており、国産りんご加工メーカーとしては国内最大級の規模を誇る。

1987年に花輪工場を立ち上げました。りんご加工メーカーとしては国内最大級の規模だと思っています。

山口●それはすごい。山口電機工業は、自動車部品の製造を行っています。父が鹿角市八幡平の出身で、人手不足になるとこちらでも採用活動を行っていました。鹿角の人は本当に真面目で、真摯に仕事と向き合ってくれるので、いつそ秋田にも拠点をとこうと、こちらに工場を作りました。

原●鹿角の人は真面目で粘り強いですね。実は昨年、千葉にあった工場を鹿角に集約したのです。大きな理由は、鹿角の人たちの仕事に対する熱心さでした。これからはこちらでの製造にどんな力を入れていくつもりです。

山口●では、千葉から社員の方々が移住されたのですか？環境の変化が大きかったのではないですか。

原●最初は不安がっていました。が、もうすっかり馴染んでいます。鹿角の方々は、外から来る人に本当に優しい。皆が気にかけてくれるので、子育て世代も安心して暮らせる場所だと思っています。私自身も、10年前に会社を継いだ際には温かく迎え入れていただきました。鹿角の方々には本当に感謝しています。

山口●そうでしたか。鹿角は人

れていくのですか？

原●はい、東北のフルーツ生産拠点として、さらに注力していきます。りんごだけでなく、桃やブルーベリーなど、この辺りにはまだまだ資源があります。そうしたものを取り入れて、可能性を広げていきたいですね。そして鹿角の人たちが「おらが町の工場だ」と誇りに思えるような会社になりたいと思います。

山口●さんはいかがですか？

山口●世の変化のスピードがとて早くなっているので、それに柔軟に対応できる会社でありたいです。私は「企業は人」だと思っています。一人一人の立場や素質に合ったマネジメントをすることで、人はどんどん伸びていくものです。そして人こそ、企業力になる。お世話になっている鹿角の人たちに報いることができるよう、これからも歩んでいきたいと思っています。

